

H31. 4. 1 時点保育所等整備量・待機児童数の公表について

保育所等整備量

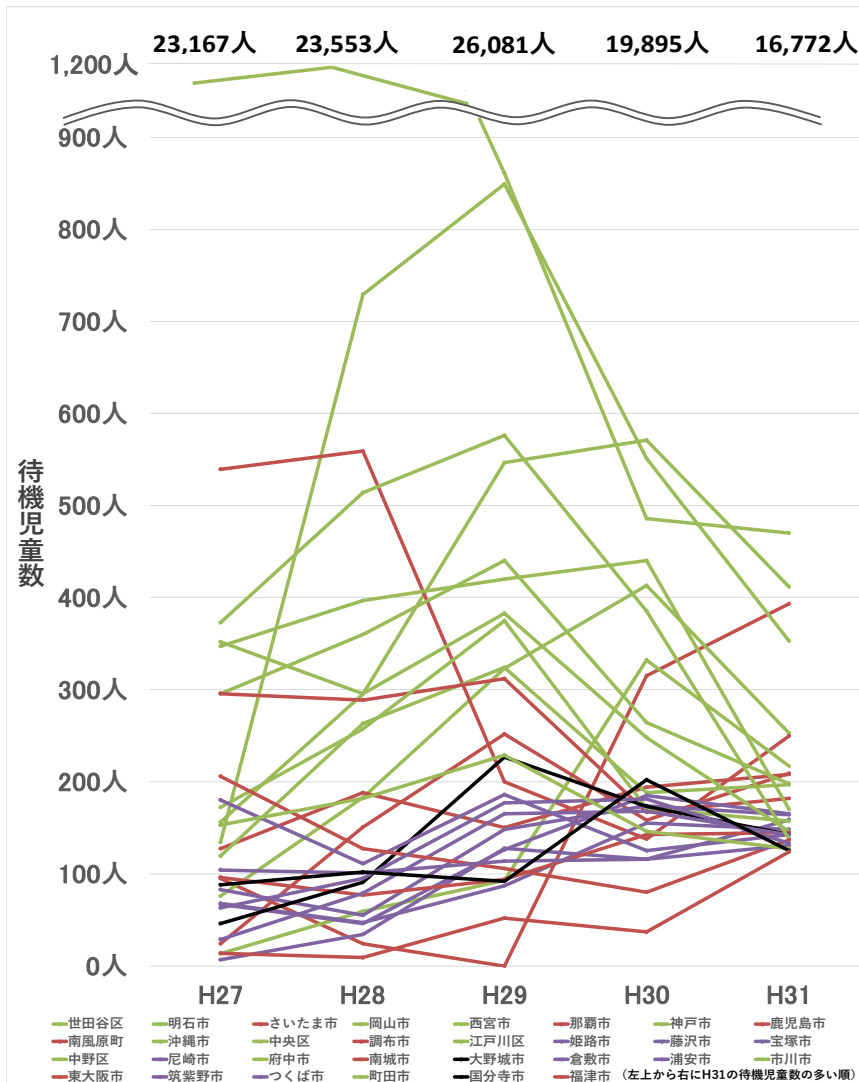
- 「子育て安心プラン」は、2018～2020(平成30～令和2)年度までの3か年計画。
※ 2020(令和2)年度末までに約32万人分の保育の受け皿を確保
- 今回は、3か年計画の1年目の実績及び3年目までの見込みを取りまとめたもの。
- 現時点の2020(令和2)年度末までの受け皿拡大見込み量は、**約29.7万人分**の見込み。
※ これまでの経緯を踏まえれば、毎年度の計画の見直しにより、政府目標の約32万人まで増加すると想定

待機児童数

- 2019(平成31)年4月時点の待機児童数は**16,772人**(対前年▲3,123人)。
待機児童数調査開始以来最少の調査結果。
※ 保育の申込者数は増加(対前年+7.2万人)
※ 過去5年の推移を見ると、自治体毎の待機児童数のバラつきは低減し、減少の傾向
待機児童がいる自治体(442)中、300人以上は4自治体(昨年から▲5)、200人以上は9自治体(昨年から▲6)
- 引き続き、保育の受け皿整備や保育人材の確保を行うとともに、**市町村の特性に応じた待機児童解消支援の重点化・強化**を実施。

市町村の特性に応じた待機児童解消支援の重点化・強化

- 全体で見れば、自治体毎の待機児童数のバラつきは低減し減少傾向。一方、待機児童が増加している自治体等もあることから、各自治体における待機児童の特性に応じたきめ細かな支援が必要。
- 重点的な支援が必要な自治体を特定し、要因・対策のヒアリングを行うとともに、さらに着実な実行を担保するため、新たに、定期的にフォローアップを行い、必要な支援を実施。



① 過去2年で待機児童数が大きく(100人以上)減少した自治体 (39/1,741)

- ✓ 減少傾向を継続させるため、保育の受け皿整備(補助率の嵩上げ)や保育人材の確保を引き続き支援

② 見込みを上回る申込者数の増により、待機児童が増加した自治体(123/1,741)

- ✓ 各自治体にヒアリングを行い、地域のニーズが満たせるよう、整備計画の見直しを実施し、保育の受け皿整備を着実に促進

③ 待機児童数が3年間1~100人台で推移している自治体(276/1,741)

- ✓ 市区町村内の居宅から容易に移動することが可能な区域(保育提供区域)ごとに、申込者数の推移などを分析し、ニーズに応じた整備計画の検討や、保育コンシェルジュを活用したマッチング支援等を実施

※ ①~③の自治体数は重複あり